

# 小木の子 われら

校区内  
全戸回覧

令和3年2月19日発行

## 見守り隊のこれからを考える

校長 齋藤 光夫

「やりたくてやっていただけだから」

子どもたちの見守り隊として登校時の交差点に立ってくださっていた方々にお礼を伝え  
た際、いただいた返答です。

20年以上続いた見守り隊でしたが、体力的に続けることができなくなり、現在は、スク  
ールガード・リーダーの増山様がお1人で毎朝の登校を見守ってくださっています。

朝の登校時、本町十字路の通行量が多く、見守り隊がない時は危険であると保護者の  
ご指摘をいただいたことがあります。学校としては、PTA役員にも相談していますが、  
毎日の登校見守りをPTAの「当番」としてしまうには、負担が大きく日常の仕事に影響  
が生じ、持続可能なシステムとはならないことから、解決策は見つかりません。

子どもの安全・安心を最優先に考えての一つの策（地域の皆様としては賛否両論あると  
は思いますが）として、スクールゾーンであるS字クランクに道路交通法等による通行時  
間規制ができるよう教育委員会や警察当局にお願いしています。しかし、必要となる時間  
規制が長くて30分間程度（7時30分～8時）では、法による規制は難しいとのことです。

現在、4つの登校班が本町十字路からのS字クランク（スクールゾーンカラーの歩道あ  
り）を利用しています。通過する時間帯は、概ね7時40分から7時50分までの10分間  
です。そのため、7時35分過ぎ頃から通行止めバーを設置し、回り道にご協力をいただ  
いております。朝の忙しい通勤時ですので、S字クランクを利用している運転手の皆様には、  
大変ご不便をおかけしています。中には、知らずに進入してしまい、通行止めバーをご自  
分で取り外して通り抜ける方もいらっしゃいます。見守り隊が立ってくださっている  
ときは、制止することもできましたが、この交差点以外にも旧喜八屋前交差点で子ども  
たちが横断するため、スクールガード・リーダーの増山様お一人では対応しきれません。

「当番」は負担感を生みます。現在、防災無線で「ながら見守りのご協力」を呼びかけ  
ていますが、「子どもの安全を見守りたくて、やりたくてやっているだけ」と無理なく持  
続可能な見守り隊の協力が得られるよう、学校として新たな策を模索しているところ  
です。